

事例

引きこもり児童の施設体験

寿耕会（鳥取県） 〒689-4403 鳥取県日野郡江府町久連7番地 TEL 0859-75-3626

活動の概要

関係機関（町役場の保健福祉課、民生児童委員、児童相談所）との連携により、特別養護老人ホームにおいて、引きこもり児童1名（17歳）を体験研修職員として受け入れ、本人の希望により週3日通うことになりました。

入所者ならびに従業員と触れ合うことで、他者とのコミュニケーションがとれるようになり、1年3ヶ月を経て宿泊施設への就職につながりました。

法人の概要

江府町の要請に基づき平成5年7月26日設立。

立地、環境としては大山山麓に位置し、風光明媚で静寂この上なく、スイスのチロル高原の様な自然に恵まれた最良の環境に位置しています。

- 経営施設数…4
- 法人全体の年間事業収入…262,573千円
- 主な運営施設
 - チロルの里特別養護老人ホーム
平成5年設立 定員50名
 - チロルの里ショートステイサービスセンター
平成6年設立 定員10名
 - チロルの里デイサービスセンター
平成5年設立 定員30名
 - チロルの里在宅介護支援センター
平成6年設立

実施施設の概要

- 施設名…チロルの里特別養護老人ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム 定員50名

施設の運営方針

利用者が、可能な限りその居宅における生活への復帰を念頭において、入浴、排泄、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ、自立した生活を営むことが出来るようにするものとします。

活動の内容

- 活動対象者…引きこもりの児童（17歳）
- 活動の頻度…週3日
- 年間延利用者数…1名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

中学校1年の2学期から登校拒否となり、外出もしなくなった児童について、町役場の福祉保健課並びに、民生児童委員、鳥取県児童相談所が三者一体で様々な取り組みを行ってきました。

平成14年10月20日に上記3機関から当法人へ「入所者並びに従業員と触れ合うことにより会話ができて心が開くのではないか」との相談があり、25日に本人と面接し意思確認の上、

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

同年11月5日から体験研修職員として受け入れることになりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

体験研修生として受け入れるにあたり、条件として体験費用は無し、昼食は当施設にてデイサービス利用者と一緒に同じメニューを食べます（無料）。

体験研修中は介護長ならびに、介護リーダーに同行することなどを決めました。また、一般職員と同様、タイムカードを作成すると共にロッカーや制服についても支給しました。

利用者には1施設職員として紹介し、特別扱いはせず、排泄介助、入浴介助などの業務にも施設職員とマンツーマンで取り組みました。

時折、「寂しい」と言っていて、特定の介護職員に抱きつくことがありましたが、職員の側は、本人の感情表現をありのままに受け止めるように心掛けました。

■利用者の声、地域の反応

当初は無口で行動も重い感じでしたが、10日後あたりから、言葉、行動ともに変化が見られました。入居者とおむつ交換も嫌がることなく取り組み、入所者の皆様方や介護職員からも愛称で呼ばれるようになりました。

午前8時30分から正午まで特別養護老人ホームを体験し、正午から午後1時までデイサービスを体験（食事の用意をし、デイ利用者と一緒に食事をしながら会話をします）、その後無料巡回バスにて帰宅という日課でした。

特別養護老人ホームでは午前11時にジュースと菓子で10分間労をねぎらい職員3～5人で会話をし、心を開くよう働きかけました。

本人も次第に施設に打ちとけ、利用者からも受け入れられるようになりました。また、6ヶ月をすぎた頃から「今日も来れてうれしい」と言うようになりました。

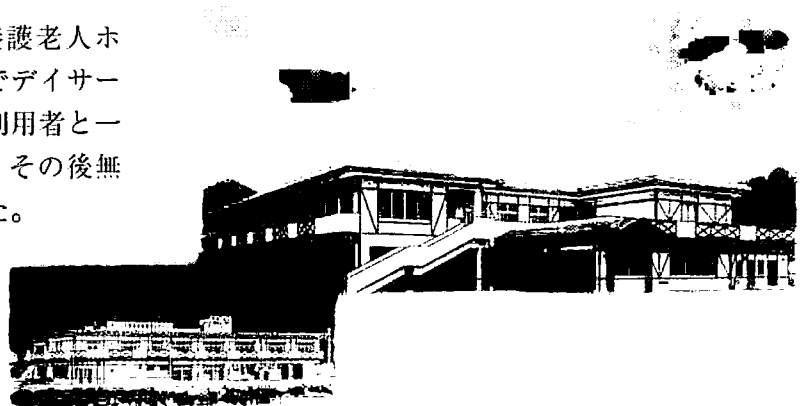
■活動の成果、地域の影響、今後の課題

平成16年2月 本人の希望でサービス業への就職が決まり、社会人としての第一歩を踏み出しました。

当施設での体験研修は1年3ヶ月で卒業しました。

更生施設ではない特別養護老人ホームでも、引きこもりの児童に対して、何らかの（自立への）支援が出来たのではと思っています。

本人のご家族、地元の町役場の福祉保健課、民生児童委員、児童相談所などの機関からも大変感謝されました。



チロルの里特別養護老人ホーム全景